



福中 満

里山保全について

問 町内のクヌギを中心とした里山林の現状について

答 能勢町は80%が森林で、その面積は7673ヘクタールに及ぶ。クヌギ・コナラ等の里山林は、一部シイタケの原木や菊炭の材料として活用されているが、その面積や活用状況は町として把握できていない。今後実態調査の必要性等を検討していきたい。現在取り組んでいるアドプトフォレスト制度や里山で活動する団体に対する支援制度等の推進によって、里山林の整備と本来里山林がもつ多面的機能を広く理解していただくよう取組んでいきたい。

- 一、里山保全について
- 二、新学校建設について
- 三、都市計画法について

新学校建設について

問 新学校の施設・設備の評価はどうであったか。

答 小中学校の教職員からの評価・意見・要望等については、校長会を通じて詳細な点についても意見聴取を行った。住民の皆様には新学校だよりや新学校説明会でその概要を示してきた。今後とも、再編整備してよかつたと評価いただけるよう、また子どもたちにとつて安心・安全でよりすばらしい教育環境になるよう、教職員と共に魅力ある学校づくりに努めていきたい。

問 通学バスの運用・経営形態について

答 通学バスについて、現段階では29人乗り、もしくは14人乗りのマイクロ

バス13路線を考えている。運用・経営については運用経費や管理経費等を考慮し、直営方式ではなくバス業者に委託し運行する方がいいのではないかと考えている。

都市計画法について

問 法規制によつて家の新築や改築がしにくい等の問題について

答 役場への苦情・問い合わせ等は把握していないが、調整区域での住宅の建築・増築に関して年間10件程度の案件がある。市街化調整区域のUターン等の定住関連については、一定の条件や府の基準を満たせば建築可能であり、個別の対応で協議し進めていきたい。

一般質問



長尾 義信

野外活動センター跡地活用の進捗状況

問 「当該地域の自然環境を保全していくと同時に、自然公園区域内にふさわしい活用策を検討している、可能な限り早く活用していきたい」と聞いているが、いまだに手付かずの状況である。施設や森林整備の現況、跡地活用の進捗よく状況について再度問う。

答 平成24年度から町管理により施設内の維持管理及び除伐、森林整備を行っている。今年度、跡地活用に向けた検討支援業務の委託を行い、民間活力を導入することを視野に入れて、参入の可能性について民間企業へのヒアリングを行い、当該エリアの特性を最大限に活かすことができる活用策を模索している。今後も引き続き検討し、来年度に具体的な活用計画を取りまとめたいと考えている。

- 一、野外活動センター跡地活用の進捗よく状況
- 二、ラジオ体操等の健康づくり推進活動
- 三、広報情報誌「広報のせ」の制作・発行

ラジオ体操等の健康づくり推進活動

問 「平成28年度新学校の開校時期に合わせ、NHK夏の巡回ラジオ体操を実施したいと考えている」と聞いているが、今後の健康づくり推進活動の展望及び地域活性化、地域の運動普及の一環として、能勢町独自が作成する健康体操を考案されているか問う。

答 新学校を会場として実施する計画については、今後、小中学校はもとより色々な場所でもデオ等を利用して、子どもから高齢者の方まで多数の皆さんに参加いただけるよう努めていきたい。また、能勢町独自の健康体操については、内容等の研究を進めるが、まずラジオ体操の普及を一番に考えていきたい。

情報広報誌「広報のせ」の制作・発行

問 「広報のせ」は町民と行政が情報の共有化を図るための効果的な情報発信の手段である。広報メディアの多様化、人々の意識・行動の多様化などが挙げられるなかで、自治体として「広報のせ」の持つ役割及び制作・発行について、今後の展開を問う。

答 広報誌は、住民の皆さまと行政の大切なコミュニケーションツールであると考えている。単に行政情報を掲載するだけの一方通行の内容ではなく、住民が知りたい内容、また知っていただくための工夫や努力を重ねながら魅力ある広報誌の作成に取り組む、「広報のせ」の資質向上に努める。なお、記事作成、レイアウトは町職員で行い、印刷業務のみを外部に委託している。